

令和7年度
熊本県高校魅力化コンソーシアム状況報告

玉名市コンソーシアム(仮)
(玉名市/玉名高校、玉名工業高校、北稜高校)

1. 高校魅力化コンソーシアムの紹介

コンソーシアムの名称：玉名市コンソーシアム（仮）

構成する市町村／学校：玉名市、玉名高校、玉名工業高校、北稜高校

①学校の概要

玉名高校

住所 玉名市中1853

電話番号 0968-73-2101

課程 全日制、定時制

学科・コース 普通科

学級数・生徒数

全日制：1学年8学級、2学年7学級、3学年7学級

定時制：1～4年生 各学年1学級

学校の特長

創立123年目を迎える県内屈指の伝統校である。「白垂の殿堂」と呼ばれる本館校舎は国の登録有形文化財に指定されている。校訓「至誠・剛健・進取」のもと、自由な校風の中で生徒の可能性を広げる教育活動が行われ、4万人を超える卒業生は国内外のさまざまな分野で活躍している。

現在の取り組み

◎高校魅力化コンソーシアム事業により、高校と地域の協働体制を構築している。（例）玉名市役所、熊本大学と連携して

「街づくり」をテーマに探究活動を推進。

◎課題を発見する力、解決方法を考える論理的思考力、解決するために様々な他者とのかかわりの中で協働する力を磨く。

②市町村の概要

面積 約152km²

人口 61,560人（2026.1月末）（市町村HPの紹介等）

人口密度 416人/km²（2024年）

市町村の紹介

有明海、菊池川、小岱山、金峰山系の山々の豊かな自然を有し、米、トマトなどの野菜、イチゴやみかんなどの果実類の農産物や、ノリやアサリなどの水産業が盛んな地域です。

一方で、市街地には国県の機関、大学、高校、病院、商業施設が立地するなど生活の利便性が高く、また、JR鹿児島本線や九州縦貫自動車道、有明フェリーを近隣に有するなど交通の便にも恵まれており、九州新幹線で博多まで40分、鹿児島まで1時間、大阪までを3時間半で結び、福岡都市圏への通勤、通学の利便性が向上し九州管内もとより関西圏も日帰り可能なエリアです。

市内には、公立高校が3校と私立高校が2校、大学と専門学校がそれぞれ1校あります。

現状・課題

市内には高校が5校ありますが、すべての高校が定員を満たせていない状況です。少子化で子どもの人数自体の減少に加えて熊本市内への進学率が増加しており、市では早い段階で定員不足を解消したいと考えています。

1. 高校魅力化コンソーシアムの紹介

コンソーシアムの名称：玉名市コンソーシアム（仮）

構成する市町村／学校：玉名市、玉名高校、玉名工業高校、北稜高校

①学校の概要

玉名工業高校

住所 玉名市岱明町下前原368

電話番号 0968-73-2215

課程 全日制

学科・コース 機械科、電気科、電子科、工業化学科、土木科学級数・生徒数 18学級・644名（2025年度）

学校の特長

「工業人たる前に良き人間たれ」を人材育成の礎として、工業5学科それぞれが特色ある取り組みを行っている県北地区唯一の工業高校です。令和6年度から文部科学省事業であるマイスター・ハイスクール普及促進事業の拠点校、高等学校DX加速化推進事業の採択校として、産・学・官・金で連携した授業や、最新のICT設備の導入を行うなど、産業界の未来を担う人材の育成を進めています。

企業との連携授業では、実際に現場や工場へ行き、学校にはない最新機器や設備を利用した体験実習や、企業の専門人材による講義、出前授業等を各学科・各学年で年間を通して実施し、地域とともに産業人材の育成を行っています。また、「新たな学びの場」として最新のICT機器の導入によるDXに特化した教室を整備し、デジタルの効果的な利活用のスキルと問題解決能力を身に付けたデジタル人材の育成を行っています。

併せて、地元地域との連携を深化し、地域とともに取り組んでいることを広く発信していくことで、学校の魅力向上につなげていきたいと考えています。

②市町村の概要

面積 約152km²

人口 61,560人（2026.1月末）（市町村HPの紹介等）

人口密度 416人/km²（2024年）

市町村の紹介

有明海、菊池川、小岱山、金峰山系の山々の豊かな自然を有し、米、トマトなどの野菜、イチゴやみかんなどの果実類の農産物や、ノリやアサリなどの水産業が盛んな地域です。

一方で、市街地には国県の機関、大学、高校、病院、商業施設が立地するなど生活の利便性が高く、また、JR鹿児島本線や九州縦貫自動車道、有明フェリーを近隣に有するなど交通の便にも恵まれており、九州新幹線で博多まで40分、鹿児島まで1時間、大阪までを3時間半で結び、福岡都市圏への通勤、通学の利便性が向上し九州管内もとより関西圏も日帰り可能なエリアです。

市内には、公立高校が3校と私立高校が2校、大学と専門学校がそれぞれ1校あります。

現状・課題

市内には高校が5校がありますが、すべての高校が定員を満たせていない状況です。少子化で子どもの人数自体の減少に加えて熊本市内への進学率が増加しており、市では早い段階で定員不足を解消したいと考えています。

1. 高校魅力化コンソーシアムの紹介

コンソーシアムの名称：玉名市コンソーシアム（仮）

構成する市町村／学校：玉名市、玉名高校、玉名工業高校、北稜高校

①学校の概要

北稜高校

住所 玉名市立願寺247

電話番号 0968-73-2123

課程 全日制

学科・コース 園芸科、造園科、商業科、家政科

学級数・生徒数 151名

学校の特長

- ①創立80周年となり、地域で卒業生が活躍
- ②就職希望者の約8割が玉名・荒尾管内で就職
- ③タイ王国派遣研修の実施（R5より）

学科・コースの学びの特長

- ①各学科による体験的な学び
（インターンシップ、地域交流、商品開発）
- ②総合選択制による学科を越えた多様な科目選択
- ③県内唯一の造園科を有している

現状・課題

- ①一人ひとりに丁寧な指導・支援ができていない
- ②入学生徒の定員割れが続いている

②市町村の概要

面積 約152km²

人口 61,560人（2026.1月末）（市町村HPの紹介等）

人口密度 416人/km²（2024年）

市町村の紹介

有明海、菊池川、小岱山、金峰山系の山々の豊かな自然を有し、米、トマトなどの野菜、イチゴやみかんなどの果実類の農産物や、ノリやアサリなどの水産業が盛んな地域です。

一方で、市街地には国県の機関、大学、高校、病院、商業施設が立地するなど生活の利便性が高く、また、JR鹿児島本線や九州縦貫自動車道、有明フェリーを近隣に有するなど交通の便にも恵まれており、九州新幹線で博多まで40分、鹿児島まで1時間、大阪までを3時間半で結び、福岡都市圏への通勤、通学の利便性が向上し九州管内もとより関西圏も日帰り可能なエリアです。

市内には、公立高校が3校と私立高校が2校、大学と専門学校がそれぞれ1校あります。

現状・課題

市内には高校が5校ありますが、すべての高校が定員を満たせていない状況です。少子化で子どもの人数自体の減少に加えて熊本市内への進学者が増加しており、市では早い段階で定員不足を解消したいと考えています。

2. コアチームの体制（コーディネーター、高校職員、市町村職員等）

高校魅力化コンソーシアムの立ち上げに関わる主なメンバー（コアチーム）

所属	役職／肩書	コアチームにおける担当・役割
玉名市役所地域振興課	課長補佐兼係長 参事	池田和司 田上真紀
玉名高校 玉名工業高校 北稜高校	教頭 教頭 教頭	山下祐二 千場博文 田添裕治
コーディネーター （玉名市役所地域振興課）	高校魅力化コンソーシアムマネージャー	池田奈巳

3. コンソーシアム設立の目的と背景、今後のビジョン

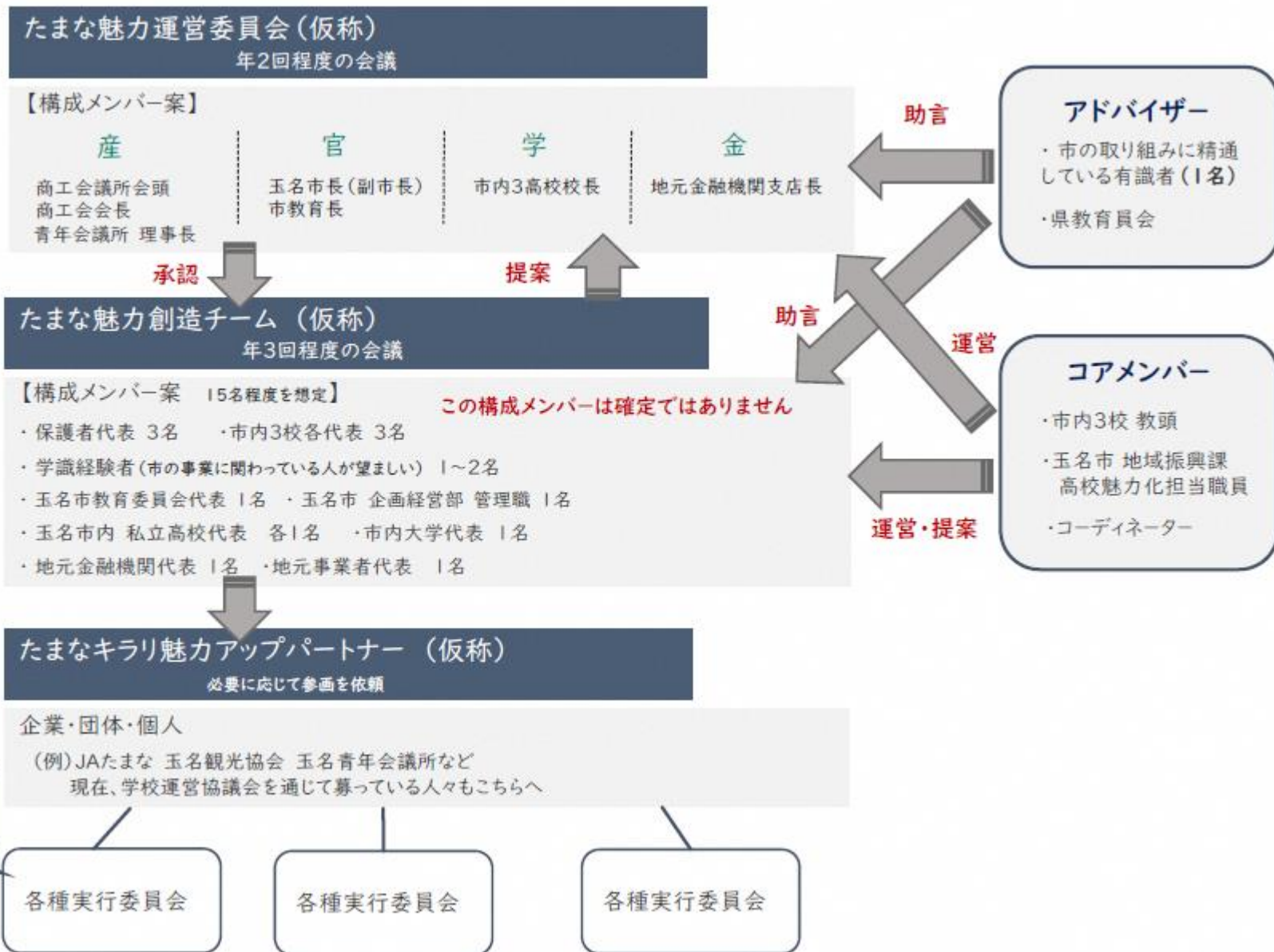
・ 高校魅力化コンソーシアム設立の目的と背景（課題等も含む）

子どもが地元で学び、子どもを地元に残す「生徒や地域に選ばれる学校づくり」学校と地域が連携し、“たまな”だからできる学びの機会を創出し、“たまな”で学びたいと思う環境づくりに取り組む。各校の志願者の増加を目指すだけでなく、将来“たまな”で活躍したいと思う人材を育成し、玉名の地域力アップにつなげる

・ 今後のビジョンについて、わかる範囲で記載。予定等でもよい。

- ①R8年度前半に規約を策定し、中旬に運営委員会を開催する
- ②高校まつりを5校で取り組む事業として定着させる
- ③新たな事業について、小学生から保護者まで多くの人に参加してもらえるものを企画する

4. 高校魅力化コンソーシアムの組織体制



5. 取り組んでいることリスト（項目別）

① コアチームの体制づくり

- ・ コアチームメンバーの決定
- ・ コアチーム会議の定期的な実施

③ コンソーシアムによる事業の実施

- ・ 高校まつりの実施
- ・ 玉名未来トーク（合同発表会）の実施
- ・ 未来づくり研究所の実施
- ・ たまLabo+の実施
- ・ 高校生百貨店の実施
- ・ ONEチームの実施

② コンソーシアムの体制づくり （ステークホルダーの発掘・巻き込み等含む）

- ・ 組織体制図の検討、作成
- ・ 委員の選定
- ・ 規約の検討、作成

④ リソース（ヒト・モノ・カネ）獲得、その他

- ・ 地域おこし協力隊の募集（採用なし）

(参考) コンソーシアムマネージャーの役割と権限

- ✓ 必要なコーディネート機能は、役割のレベルによって大きく3つに分類され、特にプレーヤークラス及びマネージャークラスのコーディネーターには、カリキュラム開発に係る専門性の高い知識と、地域人材の発掘、育成、教育資源の収集・整理等のために地域内外との継続的な連携が求められる。
- ✓ コーディネーターが非常勤やボランティア等といった配置では、必要なコーディネート機能を継続的に担うことができず、教職員が多くの役割を担う必要がある。



6. コーディネーターの業務とスケジュール

CN氏名：池田 奈巳

(1) 主な業務とその割合

地域と関わる教育活動の支援	15%
地域側との連絡・調整	10%
学校外地域活動の支援	25%
地域への発信	15%
協働体制構築	25%
地域資源発掘	10%

(2) おおまかな1週間のスケジュール

1週間のスケジュール			
	AM	PM	備考
月	高校魅力発信関連業務	高校魅力発信関連業務	
火	他県連携 WEBミーティング	玉名高校 総合探究 (1年)	
水	市内 私立高校訪問 学校外地域活動準備業務	魅力発信イベント 関係者会議	
木	地域事業者打ち合わせ (連携事業関連) 学校外地域活動準備業務	振替休日	
金	魅力発信イベント準備 学校外地域活動準備業務	振替休日	
土	学校外地域活動 (高校生地域活動サポート)	学校外地域活動 (事業者連携プログラム)	
日	休日		

※毎週火曜の探究授業以外の定期スケジュールはないため、時期によって業務内容は異なる



図5：高校と地域をつなぐコーディネート機能の位置づけ

7. 令和7年度スケジュール（活動報告）

4
月

- コアチームメンバー決定
- コアチーム会議
- 連携事業実施 事業者打ち合わせ
- 高校生校外活動

5
月

- コアチーム会議
- 魅力発信イベント準備
- 地域事業者 連携打ち合わせ
- 高校生校外活動 ■ 他県連携ミーティング

6
月

- コアチーム会議 ■ 県コンソ会議
- 私立高校 事業説明 ■ 3校合同コンソ会議
- 3校 学校運営協議会にてコンソ説明
- 高校生校外活動

7
月

- 市小中校長会にてコンソ概要説明
- 地域事業者 連携打ち合わせ
- 高校魅力発信広報誌発行 ■ 高校生校外活動
- 地域学習プログラム開始 (12月まで)
- 事業者連携アントレプレナーシッププログラム開始 (11月まで)

8
月

- コアチーム会議 ■ 事業者打ち合わせ
- 中高連携 市内全中学校へのヒアリング
- ONE TEAM 玉名工業ワークショップ開催
- 高校生校外活動

9
月

- コアチーム会議 ■ 他県連携ミーティング
- 高校魅力発信広報誌発行
- 高校生校外活動

10
月

- コアチーム会議 ■ 県コンソ情報交換会
- 魅力発信イベント 各校担当者会議
- 私立高校 事業説明 ■ 高校生校外活動
- 地域事業者 連携打ち合わせ

11
月

- コアチーム会議 ■ 3校合同コンソ会議
- メディア連携事業ミーティング
- 高校魅力発信広報誌発行 ■ 高校生校外活動
- 連携事業実施 事業者打ち合わせ

12
月

- 第1回コンソ準備委員会
- 高校魅力発信イベント「高校まつり」開催
- 学習・取り組み発表「未来トーク」開催
- 高校生校外活動

1
月

- 他県連携ミーティング
- コンソ関係者 事業説明
- メディア連携事業ミーティング
- 高校生校外活動

2
月

- 3校 学校運営協議会にて進捗報告・委員推薦
- コンソ構成委員（決定機関）委員依頼
- 魅力発信イベント 各校担当者会議
- 第2回コンソ準備委員会
- ONE TEAM 北稜・玉名高校ワークショップ等開催
- 長崎県島原市高校生との交流事業

3
月

- コンソ構成委員（会議体）委員推薦依頼
- コンソ規約の検討
- 高校生校外活動 ■ 高校生メディア連携事業開始

8. 令和8年度スケジュール（活動予定）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
（準備委員会） コンソーシアム	◇規約作成			◇チーム会議		◇運営委員会 ◇規約の決定			◇チーム会議		◇運営委員会	
実施事業	◆たまLabo.+（通年）				◆高校生百貨店（～11月）	◆未来づくり研究所（～12月）		◆高校まつり		◆未来トーク		◆ONEチーム

9. 今年度のまとめと次年度への展望（項目別）

	①コアチームの体制づくり	②コンソーシアムの体制づくり
A.目標や取り組む中で見えた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・公立3校の中から代表校（取りまとめ校）を選出し、代表校が公立3校の意見の集約、連絡等を行ったので、代表校の負担が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ・コアメンバーでどこまで決めてよいのかわからない ・市と公立高校の私立高校に対する認識のずれ ・業務のすみわけができていない
B.Aに対する具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・公立3校からコアチーム会議に参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・県からアドバイスがあり、準備委員会を立ち上げた ・私立高校の取り扱いのずれを一致させる
C.取組により得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・取りまとめが不要になり負担減 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備委員会の委員から意見をもらい構成メンバーを決定した ・準備委員会のメンバーに私立高校を加える
D.残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日程調整の方法（例、毎月第3水曜日午前中と事前に決めておく） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターの業務のすみわけができていない
E.今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回コアチーム会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・私立高校を含めた準備委員会の実施

9. 今年度のまとめと次年度への展望（項目別）

	③コンソーシアムによる事業の実施	④リソース（ヒト・モノ・カネ）獲得、その他
A.目標や取り組む中で見えた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市内5校が参加する高校まつりの実施 ・公立と私立では高校まつりの開催希望時期が異なる 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター1人で担える業務に限界がある ・県の補助金がなくなった場合、市の予算が獲得できるのか
B.Aに対する具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度に実施した高校まつりでは担当者会議及び反省会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊の募集（不採用） ・運営委員会に金融機関を入れた ・サポーター制度の構築
C.取組により得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・5校の担当者が集まって直接意見交換したことで、互いの立場や想いを共有した ・次年度の日程が決定した 	<ul style="list-style-type: none"> ・肥後銀行玉名支店長の委員への就任 ・地域企業から集まる場所（居場所）を提供
D.残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者への周知方法 ・イベントの休日対応における職員の服務 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を一緒に担う人材の確保 ・事業費の確保
E.今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・高校まつりを玉名市の高校PRの場として定着させる ・生徒募集や魅力発信に向けた働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税制度の利用 ・サポーター制度を利用し協力者を増やす ・サポーター制度参画の周知 ・居場所を活用した地域企業と高校生の交流機会の創出

10. 次年度に向けて課題、今後の展望（学校、市町村別）

	学校	市町村
課題と感じていること	<ul style="list-style-type: none"> ・高校まつりin玉名の周知・集客【北稜】 ・私立高校の協働に向けた調整【北稜】 ・今後の予算面の確保（令和9年4月からの自走事業を見据えて）【北稜】 ・コーディネーターにどこまで業務をお願いができるか（校内業務等）【玉名】 ・1年生への活用しかできなかった【玉名】 ・職員間の温度差【工業】 <p>取組みの目的や目標、内容が具体化・明確化・周知されていないため、事業自体を理解・把握していない職員がおり、学校全体で取組めていない状況がある。何のために取組むのか、何をするかを、全職員に周知し、学校全体で取組む必要がある。【工業】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和9年度以降の予算の獲得 ・1人のコーディネーターでできる業務量
次年度への目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム会議の開催【北稜】 ・コンソーシアムのビジョン策定【北稜】 ・他関連事業のコンソーシアムへの集約【北稜】 ・コーディネーターの活用方法についてシステム化する（探究活動の運営・指導が属人化せず、問題なく進められるように）【玉名】 ・目的や目標の明確化と全職員への周知【工業】 ・取組みの内容を検討、学校全体で取組む【工業】 ・取組みを地域へ広く発信【工業】 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで市が主導して取り組んできた事業の継続 （未来づくり研究所、未来トーク、高校まつり）
具体的に取組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・試験的な通学バス運行に向けた働きかけ【北稜】 ・各校が得意とする学習活動や地域連携やの活動に3校（将来的に私学も含む5校）が参加できる仕組みづくり【北稜】 ・コーディネーターを活用して、外部連携をスムーズに行えるようにする【玉名】 ・依頼する業務について何ができて、何はできないのかをコーディネーターと相談しながら決めていく【玉名】 ・学校間連携や交流会・地域との連携や交流会【工業】 ・高校まつりの充実・取組みのアウトプット、広報活動【工業】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税制度の利用 ・規約等の策定

コンソーシアム立ち上げに向けた実践事例①

タイトル：玉名高校1年生 総合的な探究の時間



◆背景・取り組みの概要

探究活動のテーマは「玉名市の活性化」

玉名市が作成している玉名市まちなかグランドデザイン「まちなか未来図」を活用。市内が6エリアに分けられている。それを活用し、各クラス生徒を4つのグループに分けて担当エリアを割り当て、各エリアの活性化について取り組んだ。

市から高校生活の中で地域に触れる機会、地域を知り・学ぶ機会として取り組み継続をほしいとの希望もあり、次年度以降も1年生の探究テーマとして活用予定。

◆参加者/対象者

対象者：玉名高校1年生 全生徒

◆CNとしての関わり

来校頻度：週1回（火曜・6～7限）

活用内容例

- ①授業前打ち合わせ（6限）
- ②市役所関係部署、地域事業者等との連携
- ③生徒からの企業訪問の相談受付

◆実施の結果・成果

生徒は、夏休みや放課後の時間を利用して市役所や地域事業者を訪問した。昨年と比べるとインタビュー等のために実働的に取り組んだ生徒は増えた。

◆得られた知見・ノウハウなど

校内での活動サポートを総探担当教員、渉外活動についてCNと役割分担をすることで、担当教員は授業時の生徒サポートに専念できた。訪問先への根回しや連絡先一覧を作成してもらえたおかげで、生徒も自分たちで活動を進めていくことができた。

コンソーシアム立ち上げに向けた実践事例②

タイトル：高校魅力発信事業「高校まつり」



◆背景・取り組みの概要

玉名地区（近隣の荒尾市含む）ではここ10年で中学卒業生の管外流出割合が増加傾向であり、玉名市に限らず近隣地域を含め広く市内県立・私立高校の魅力を発信する機会として、「合同進学説明会」を開催。

昨年度から中学生限定ではなく、全世代を対象とし、名称も「高校まつり」へ変更し開催。今回で通算4回目の開催。

◆参加者/対象者

参加校：玉名市内5校+有明工業高等専門学校

対象者：玉名市および周辺自治体 全市民

◆CNとしての関わり

企画立案から運営までの業務全般

◆実施の結果・成果

事業の一本化および拡大化を踏まえて実施形態等を各校と話し合いのうえ、これまでとは実施形態・時期・場所を変えて行ったが、来場者数の大幅減少など様々な課題が見つかった。今後は事業のあり方などを検討し、改善を図る。

◆得られた知見・ノウハウなど

これまでは各校へヒアリングを重ねる形で事業づくりを進めてきたが、今年度からは担当者会議を設定し、各校担当者が集まり意見交換を行う場を設けることで、プロジェクトの目的や方向性など共通認識形成の場として有意義であったと思う。

コンソーシアム立ち上げに向けた実践事例③

タイトル：アントレプレナーシップ育成プログラム「高校生百貨店」



◆参加者/対象者

参加者：玉名高校探究授業1年2組 2班 8名

北稜高校2年 マーケティング選択 希望者 5名

プログラム参加希望者 市内3校より 9名 計22名

募集対象者：玉名市内5校 全学年

◆CNとしての関わり

事業者との連携、参加生徒募集、プログラム運営 など業務全般

◆実施の結果・成果

高校生で設定した目標も達成し、普段の学校生活とは異なる学生と協働することでの新たな視点、地域事業者とのつながりも生まれ、地域の学びを深める機会となった。

◆得られた知見・ノウハウなど

今年度はじめて学校外での取り組みと授業との連携を実施し、参加者も1.5倍程度増となった。人数が増えたことにより多様な視点での議論、活動の幅など広がりを見せた一方、役割や責任所在の明確化など改善が必要な点も明確となった。

さまざまな取組みと学校での学びを結び付けていくための基本事例となるよう、各校への周知などブラッシュアップしておく必要がある。

◆背景・取り組みの概要

高校生百貨店は高校生たちが地域の商品を開発・選定し、販売に至るまでの実践的なプロセスを通して、自己選択・自己決定による社会への貢献を促すアントレプレナーシッププログラム。

高校生が地域の特産品を通じて自ら地域や社会の課題を発見し、解決する実践の場として事業者と連携して昨年度から実施。

今年度からは授業の一環として活用されている。